

奥羽大学報



＜中夜祭パフォーマンスコンテスト＞

目 次

第17回奥羽祭／イルミネーション点灯式／（歯）父兄授業参観・・・	2
保護者懇談会／（歯）学位記授与式／	
第62回東北地区歯科医学会表彰	3
国際学会	4
アメリカミンクの生態調査／第48回奥羽大学歯学会	5
平成22年度科学研究費補助金申請状況／	
高大連携公開講座（出張講義）／教育研修講演会（FD講演会）／	
戦略的大学連携事業	6
指導歯科医講習会／歯科衛生士科2年生臨床実習開始／	
第15回日本私立歯科大学歯学部附属病院歯科技工士協議会／	
図書館で「蒲生明展」開く	7
大学基準協会実地視察／クリーン作戦運動／学友会活動記録／	
同窓会	8
同窓生のひろば／人事	9

124

第17回奥羽祭



増田 晃一

(実行委員長 歯学部 4年生)

10月10日(土)、11日(日)に第17回奥羽祭を無事に開催することができました。開催にあたり今年は特に新型インフルエンザが大きな問題となりました。奥羽祭の開催によりインフルエンザを蔓延させるわけにはいかなかったので中止も視野に入れつつ、マスクの配布の徹底、消毒薬の配置など対策を講じました。来場者は1,753人と昨年より減ってしまいましたが、来場者減少が奥羽祭後に問題点として話にも上がらなかったことこそ成功の証であると考えます。

当日は台風の心配もありましたが、あたかも台風一過といわんばかりの天候に恵まれました。そのさわやかな秋晴れの中、実行委員や各団体は各々の個所で大いに力を発揮していて、来場された方、また主催側の学生も奥羽祭のテーマである「Precious Days」に沿う貴重な日々になったと思います。さらに、私自身にとっても貴重な日々にするため、多くの方々にとっても良い奥羽祭を目指してひたすら努めてきましたが、終わってみると実行委員のメンバーを含め関係者の方々、来場者の方々のお陰により奥羽祭に携わった日々を貴重にしてもらったように思います。

また、各方面の方々から良い評価をいただいたり、実行委員の一段と成長した姿をみると実りの多い奥羽祭であったと実感うれしく思いました。奥羽祭に対し各々それぞれの気持ちを抱いていることと思いますが、次の実行委員会もその全ての気持ちを大切にしていってほしいです。

最後になりましたが、奥羽祭にご協力いただいたすべての方々にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

イルミネーション点灯式

12月7日(月)記念講堂ロータリー前にて17:00よりイルミネーション点灯式が行われた。当日は多数の参加者並びに報道関係者が来校し、点灯に合わせジャズ研究会の演奏が行われ式典に華を添えた。ヒマラヤ杉に飾り付けられたイルミネーションは1月31日(日)まで点灯され、行き交う学生・教職員の目を楽しませている。

(鷲 健一)



ヒマラヤ杉に飾り付けられたイルミネーション

父兄授業参観

歯学部

本年度2回目の授業参観が10月8日(木)に行われた。当日は台風の影響もあり5月の参観より少ない参加となっが、長時間に渡りじっくりと参観していただいた。

参加された父兄からは、先生方が熱心に教えている様子が分かり素晴らしいとの感想があったが、一方でこれからも学生に厳しく指導してほしいとの声も聞かれ、大学教育に対する父兄の関心の高さと子弟の学力向上を切に願っている姿がうかがえた。

父兄にとっては、学生の様子や実際の講義を観るまたとない機会になったようだ。来年度以降の開催も検討していきたい。

(三浦 孝英)

保護者懇談会

歯学部

10月10日(土)、保護者懇談会は父兄、学生、教員の三者面談形式で開催され、父兄参加者は233名であった。各学年主任、クラス担任より、出欠状況、定期試験成績等が提示され、成績及び学生生活に関することから、特に6学年では卒業試験、歯科医師国家試験、臨床研修についての懇談がなされた。参加した学生からは、いずれも真剣な表情がうかがえた。なお、並行して本学カウンセラーが、父兄からの様々な個別相談にも対応した。

(鈴木 陽典)

薬学部

薬学部にとって初のCBT、OSCEの本試験を間近に控え、不安無く対処できるようにと奥羽祭に合わせて、10月10日(土)午前10時より第2講義棟第1講義室で薬学部保護者懇談会を開催した。

総勢156名のご父兄のご出席を賜り、午前10時半より教職員を含む全員で聞いた(株)ファーマプロダクト和田功氏による講演では、CBTや国家試験合格への近道はなく、回り道をしないことが肝要であるということ、問題をただ解くだけでなく、関連事項の整理に利用するという話があった。

また、当日は6年制課程4年生のご父兄を中心に個別面談を行う予定であったが、1年生から旧課程4年生まで幅広い要望があり、各学年すべての個別面談を行った。懇談は午後2時過ぎまでに及んだ。

(上野 明道)

学位記授与式

歯学部

平成21年度9月期の学位記授与式が、9月30日(水)第3会議室にて举行された。当日は口腔病態解析制御学講座の田谷かほる助教(第275号、論文名「トレハロースは $\text{IKK}\beta$ の分解を抑制してマクロファージからの炎症性サイトカイン産生を抑制する」)と歯科保存学講座の佐藤穂子講師(第276

号、論文名「ポリプロピレン製ポイントの安全性に関する研究－ガッタパーチャポイントとの比較－」)の2名が栄えある博士(歯学)の学位を授与され、清水秋雄学長よりお祝いと励ましのお言葉をいただいた。

(鈴木 康生)



写真左:佐藤穂子講師、右:田谷かほる助教

第62回東北地区歯科医学会表彰

10月17日(土)に盛岡市の岩手県歯科医師会館で開催された第62回東北地区歯科医学会において、本学歯学部口腔衛生学講座が東北地区歯科医学会表彰を受けた。この表彰は東北地区歯科医学会において、5年以上にわたり、通算5回発表した会員または団体若しくはグループに対し表彰状と記念品が贈呈されるものである。

表彰式は、東北6県の歯科医師会長、岩手医科大学歯学部長、東北大学大学院歯学研究科長および本学の天野義和歯学部長の列席のもと、東北地区歯科医師会連合会の箱崎守男会長より表彰状と記念品が授与された。なお、翌日の一般口演では、本学関係から「歯学部学生の生活習慣と喫煙の状況の関連性について」、「永久歯萌出の個人差とう蝕罹患との関連性について」の2演題が発表された。

(瀬川 洋)



国際学会

—第3回国際機能学会大会—

ツインブロックアプライアンスが脳活動および頭蓋顔面軟組織に与える影響

第3回国際機能学会大会（Ⅲ International Congress IFUNA）が10月1日から10月4日の会期でイタリアのトリノにあるトリノ大学の歯学部において開催され、学会長であるDr.Gorbonos先生に指名され講演した。

機能的顎矯正装置の一つで装置をつけたまま会話や咀嚼嚥下を行うツインブロックアプライアンスは、舌や口唇、下顎の運動を正常に誘導する機能的なメカニズムによって下顎の前方成長を促し、軟組織側貌の改善と三次元的な上下顎の骨格関係の改善という良好な治療成果を早期にもたらし。

当分野では、Class II div. 1を対象にツインブロックアプライアンスを装着し下顎を前進させた時の頭蓋顔面の温度変化や顔表面の動態、一次感覚運動野や前頭前野の脳活動についてサーモグラフィー、光学式モーションキャプチャーシステム、近赤外線分光法を用いて分析してきた。講演では、ツインブロックアプライアンスが脳活動および頭蓋顔面軟組織に与える影響について全体論的視点から報告した。

（氷室 利彦）



講演する氷室教授

—国際歯科麻酔学会—

手術侵襲の違いにおける顎骨への局所麻酔薬浸潤性の研究

10月14日から17日まで、オーストラリアのゴールドコーストで開催された国際歯科麻酔学会に渡辺正博臨床助手と参加した。この学会は3年ごとに開催され、今回で12回目となる。

抜歯や抜髄などのための浸潤麻酔効果は、顎

骨への局所麻酔薬の浸潤によるが、それらに関する報告はない。そこで、手術の違いにおける顎骨への局所麻酔浸潤性を検討した。臨床的には、骨膜剥離下注水処置(インプラント埋入術、埋伏歯抜歯術、嚢胞摘出術、歯根端切除術)、および非骨膜剥離処置(抜髄、普通抜歯、生活歯の形成)とで、浸潤麻酔効果を検討した。結果として、非骨膜剥離処置で、初回投与量平均約1.8mLで約65分間奏功したが、骨膜剥離下注水処置は約2倍の初回投与量でも約半分の時間しか奏功しないことが明らかになった。

ウサギを用いた実験では、リドカイン浸潤麻酔後に骨膜剥離注水側と非骨膜剥離側で、実際に顎骨を摘出して顎骨内リドカイン濃度を測定した。結果として、顎骨内リドカイン濃度は骨膜剥離注水側では、非骨膜剥離側の約半分に低下した。このことから、骨膜剥離注水下処置では、顎骨の局所麻酔濃度が早期に低下し、痛みを訴えることが示唆された。

（山崎 信也）



写真左:山崎教授、右:渡辺助手

—第45回欧州糖尿病学会年次学術集会—

9月28日から10月2日にオーストリア・ウィーン市で開催された第45回欧州糖尿病学会年次学術集会に、服部由香助手（本学薬学部一期生、今春卒業）とともに参加し発表した。演題名は和訳すると「ベザフィブラート薬はレムナントリポ蛋白で負荷された腎メサンギウム細胞のTGF- β とタイプIVコラーゲンの発現を抑制する」である。近年、糖尿病の増加とともに糖尿病性腎症の増加が大きな問題となっている。今回は高中性脂肪血症の治療薬であるベザフィブラート薬が腎臓に直接作用し腎症を抑制する機序を見出し発表した。本研究は薬学部一期生の卒業研究の一環として

なされたものであり、海外発表までに至ったことは指導教員としてまことに喜ばしいことと思う。

ウィーンはまさに音楽の都であった。ベートーベンやモーツァルトの音楽やオペラを鑑賞することもできた。研究だけではなく高い文化に触れることができたのは大変有意義であった。なお本研究は平成21年度厚生労働省科学研究の助成をうけたことを申し添える。

(衛藤 雅昭)

—米国神経科学会SFN2009—

10月17日(土)から21日(木)まで世界最大の神経科学会である米国神経科学会SFN2009に参加し研究発表を行った。発表会場は現在、世界最大のコンベンションセンターである米国イリノイ州シカゴのマコーミックプレイスで参加者は3万人を超える。演題は「低比重リボタンパク質の酸化抑制によるフルバスタチンの心筋保護効果」である。

シカゴは五大湖の一つ、ミシガン湖西岸にある米国第3の都市で、第16代大統領であるエイブラハム・リンカーンが人生の多くを過ごした町として知られるが、最近ではアメリカ合衆国第44代大統領であり、ノーベル平和賞受賞者であるバラク・オバマのお膝元である。学会の合間をぬってシカゴ大学のキャンパス見学会に参加した。

シカゴ大学は私立の大学で、設立当初から研究に重点が置かれており、82人のノーベル賞受賞者を輩出した世界でトップレベルの大学である。日本からもノーベル物理学賞受賞者である小柴昌俊博士など多くの著名な先生方が学んでいる。このたびの学会では世界各国から集まる専門分野の先生方と熱い議論を交わすことができ、今後の研究のさらなる発展に役立ったことは言うまでもない。

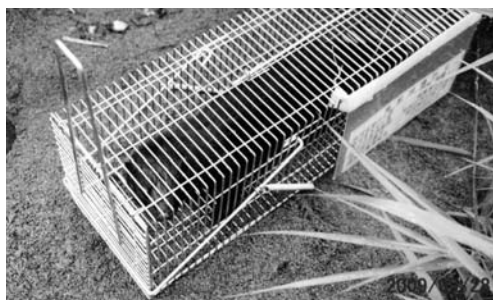
(小畑 俊男)

アメリカミンクの生態調査

全国各地で帰化動物の侵入・定着が固有の生態系破壊や農作物に対する害から問題視されている。福島県でも数年前からアライグマ

やアメリカミンクの侵入が報告されていたが、分布や生息数等の具体的な調査は行われていなかった。こうした帰化動物達は、私の研究対象である両生類に大きな影響を与えることが指摘されている。特に阿武隈川沿いではアメリカミンクを目撃が続いて報告されていたことから、私が中心となり県から許可をいただき、ミンクの捕獲にのりだしたところ、予想を上回るほどの多数のミンクが生息していることが明らかとなった。具体的な影響解析にはまだ時間がかかるが、極めて多数のミンクが生息していることが把握されたことは、この地域でのミンクによる固有の生態系への影響が極めて深刻なものであることを示唆するものだろう。このままだと、数年の内に多くの身近な生物が失われていくのではないかと危惧を深めている。

(伊原 禎雄)



捕獲されたアメリカミンク

第48回奥羽大学歯学会

11月14日(土)に、第48回奥羽大学歯学会が第2講義棟で開催された。学会長の天野義和歯学部長の開会の挨拶で始まり、計24題の発表があった。会場の参加者からも多くの質問がよせられ、活発な討議が展開された。

また、当日は秋田大学大学院医学系研究科准教授の山口典子博士による特別講演もおこなわれた。題目は「血管新生阻害因子と細胞外マトリックス」で、最先端の分子生物学および生化学的研究に基づいた新たな癌治療の試みに関するものであった。最後に鈴木康生大学院研究科長の閉会の辞で終了した。

(清浦 有祐)

平成22年度科学研究費補助金申請状況

文部科学省および日本学術振興会による科学研究費補助金とは、あらゆる学術研究の発展を目的とする独創的・先駆的な研究に対する補助金である。補助金をめぐる最近の状況については、基盤研究(C)の応募件数が年々増えているほか、平成22年度「概算要求の見直し」に伴い一部の研究種目について新規募集課題の公募が停止している。

今回本学からは95件の新規申請を行った。内訳は表の通りである。なお、採択結果の通知は来年4月以降になる。

(渡部 梓)

研究種目	学部別応募件数		合計
	歯学部	薬学部	
基 盤 研 究 (B)	1	—	1
基 盤 研 究 (C)	24	6	30
挑戦的萌芽研究	10	3	13
若 手 研 究 (B)	47	4	51
合 計			95

高大連携公開講座(出張講義)

「高大連携公開講座」とは高校に本学の教職員が伺い、自己の研究テーマに関わる最先端の様子や考え方、あるいは問題点や研究成果をもとに高校の生徒にも分かるように説明する授業のことで今年度は下記の通り講座を行った。

日時	高校名/学年	講座担当者	テーマ
9月2日(水)	横手高等学校 (秋田県) 2年	曾根孝範 教授(薬学部)	新薬が生まれるまで
10月3日(土)	尚志高等学校 (福島県) 2年	押尾 茂 教授(薬学部)	健康と環境を衛る 薬剤師

教育研修講演会(FD講演会)

11月16日(月)に技術・技能教育研究所の森和夫氏を講師に招き、「講義は学生を変え、生き生きとさせる魔法の杖」と言う演題で、F

D講演会を開催した。

森氏が徳島大薬学部で行った学生アンケートをもとに、講義法の長所、短所を踏まえた上で、どのような授業改善への取り組みが必要であるかを、短期的と長期的の2パターンについて、解説していただいた。

薬学部の主催であったが、歯学部教員や事務職員も含め約250名の出席があり、本学教職員のFD活動への関心の深さがうかがえた。

(星 幸宏)



戦略的大学連携事業

本事業は、福島県高等教育協議会の一事業として、学生の県外流出抑制や高度人材育成による地域貢献を目的として福島大学を中心に公的資金を得て本年度から開始された。これまで高等教育機関は福島・郡山・会津若松・いわきと広大な県土に分散され、各大学がそれぞれに地域貢献を行ってきた実績もある。しかしこれからは各大学が互いのノウハウを提供しながら連携を取り、県内の高等教育水準を引き上げ、地域貢献に結びつけることが求められている。現在、12のプログラムが開始され、本学からも担当者が県内所狭しと駆け回って県内の大学ひいては本学の学士力向上、学習環境向上のために取り組んでいる。

これらのプログラムを活用し奥羽大学として県民の皆様、そして何よりも在校生そして全国各地で活躍されている卒業生の皆様の目にも届くような活動を目指して努力して行きたい。

(鷲 健一)

指導歯科医講習会

歯科医師臨床研修の充実には、優良な協力型臨床研修施設を確保するための指導歯科医講習会開催が必須となっている。その講習会が9月12、13日、市内熱海町の清稜山倶楽部と本学厚生施設無垢苑にて、福島県歯科医師会の主催により開催された。

20名の参加を得て福島県歯科医師会会長金子振氏、歯科医療研修振興財団理事長中原泉氏のご挨拶後、特別講師の厚生労働省医政局佐藤裕氏の講演や、小人数討論で、深夜まで白熱した議論がなされた。また翌日も、総括・全体討議を行い夕刻の閉講式となった。

各参加者から、今後の臨床やスタッフ教育への意識改革に繋がったことへの感謝とねぎらいの言葉があった。

(高橋 和裕)



歯科衛生士科2年生臨床実習開始

戴帽式を10月2日(金)に終了した歯科衛生士科第2学年20名は、翌週から本学附属病院および市内12箇所の協力施設で臨床実習を開始した。

本学附属病院では前学年より6名少ない10名が常時ローテーションで実習を行っている。内容は、臨床実習の他に市内50箇所以上の施設で隣地実習が行われる。来年9月30日(木)までの1年間を実習期間としており、充実した環境のもとで日々修練に取り組んでいる。

(福井 和徳)

第15回日本私立歯科大学歯学部 附属病院歯科技工士協議会

10月22日(木)、23日(金)の2日間、本学が幹事校で、附属病院にて開催された。この協議会では、歯科技工士の代表者が一堂に会し、現在抱えている技工上の話題や技工技術情報等の活発な議論、技工技術情報の交換を行った。また、「介護保険における歯科技工の役割」の演題で清野和夫病院長より特別講演が行われ、介護保険において歯科技工の果たすべき役割を介護現場でどのようにかわることが出来るかについて参加者全員が熱心に受講していた。その後、病院見学や懇親会を経て2日間の会議を終了した。

(石河 達雄)

図書館で「蒲生明展」開く

大正時代、郡山・田村地方では最初の薬剤師となった蒲生明さん(故人)の約60年にわたる日記帳や調剤で使用した薬研などの器具類を紹介する「郷土が生んだ漢方医薬の開拓者蒲生明展」は10月10日(土)から10月24日(土)まで図書館で開かれた。

蒲生さんは明治29年田村市滝根町で生まれた。地元の病院で書生をしながら苦節7年の独学で薬剤師の免許を取得、東京の病院で勤務中関東大震災で被災、郷里に戻り、郡内で最初の薬局を開業、傍ら植物、民俗、言語学などの研究に没頭した。

独学で使用した図書類は「蒲生明文庫」として今、本学図書館にある。亡くなる昭和45年まで綴られた日記帳は激動の3時代の証言として、訪れた人々の注目を集めた。

(安藤 勝)



大学基準協会実地視察

本学は今年度、学校教育法の「認証評価制度」により、財団法人大学基準協会の「大学評価」を受けている。

この「大学評価」は平成14年の学校教育法改正により平成16年以降、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価を7年以内ごとに受けることが義務付けられている。

10月5日(月)大学基準協会による実地視察が行われ、本学の特色ある教育・研究や施設・設備の状況を直接確認し、様々な評価項目についてのチェックを受けた。評価の結果は、本年度末に大学基準協会から公表される予定である。

(設楽 民雄)

クリーン作戦運動

10月9日(金)に事務職員を中心としてクリーン作戦運動が行われた。この運動は事務職員発のアイディアで、綺麗なキャンパスで学生に、ひいては一般の方々に過ごしてもらおうと考え出された運動である。当日は、持参したゴミ袋と火バサミを持ちながら職員が学内を隈なく回った。これに呼応するように、学生が10月11日(日)の学祭終了後、日も沈んだなか懐中電灯を照らしながらゴミが落ちていないかと探して回ってくれた事が事務職員としてはこれ以上のない喜びであった。

(鷺 健一)



学生会活動記録

○ゴルフ部

秋期関東歯科学学生ゴルフ大会
那須伊王野カントリークラブ

平成年21年10月16日(金)・17日(土)

ダブルス優勝 野川・岡ペア

秋期関東歯科学学生11校ゴルフ対抗戦

千葉国際カントリークラブ

平成年21年10月30日(金)・31日(土)

男子団体 2位

同 窓 会

同窓の皆様そして恩師の先生方、ご無沙汰しております。今年度から2期の遠田先生に代わり千葉県の支部長に就任しました3期の齋藤英次と申します。当支部の現況を報告致します。会員数は約100名。住所等が確認されているのは53名です。執行部役員は12名で運営しております。千葉県支部の21年度の活動としては、4月に役員会、6月に平成会(歯科大学10校で組織されている懇親会で今年は我が校が幹事校となっています)の開催、10月には同窓で東京歯科大学千葉病院口腔外科に勤務されている須賀賢一郎先生をお招きし、『日常臨床に役立つ口腔外科』と題し学術講演会、懇親会を開催しました。講演会、懇親会の案内状を送りますと2期から30期台の先生方迄30名弱の出席者を数える事ができます。名簿の作成は手紙、葉書、ファックス、電話を駆使し作成いたしました。

この紙面をお借りしまして千葉県支部の役員をご紹介します。顧問 遠田毅、支部長 齋藤英次、副支部長 池田廣明・八木幹彦、専務理事 伊藤雄介、会計理事 葛山賢司、監事 大熊勉・廣澤英夫、理事 伏居教男・平井重徳・杉浦信之助・加藤佳宏、以上12名です。宜しくお願いします。

診療中、同窓の訃報がファックスで報告される度に血の気が退く思いです。私事になりますが、一人息子が大学に入り、夫婦2人の生活になり早いものでもう一年半が過ぎました。今年は散歩仲間の愛犬を失い、専ら休日は万歩計を友とし、ウォーキングに励んでおります。

(千葉県支部長 3期卒 齋藤英次)

同窓生のひろば



依田 圭吾

(歯学部 19期生)

私は、奥羽大学歯学部を平成8年に卒業した19期生です。時が経つのは早いもので卒業して13年が過ぎ去り、アラフォーになってしまいました。

郡山では入学から附属病院勤務までの、合わせて11年間生活していましたが、平成13年に故郷の山梨県に戻りました。11年間住んだ第二の故郷にはあちこちになじみの場所があり、これからの季節は猪苗代や磐梯方面のスキー場でスノーボードを楽しんだことが思い出されます。郡山にはいつ訪ねても温かく迎えてくれるという安心感を持っていますが、仕事に忙殺される毎日に、遠く感じています。

そんな折、学生時代からの友の結婚式に招かれ、郡山に久々に仲間が集う機会が、今年4月にありました。大学周辺や郡山駅前など、目の風景が自分の記憶と一致せず、時間が経ったことをつくづくと感じ、一抹の寂しさを覚えました。しかし、幸せそうな友を肴に仲間たちや恩師の方々と語らううち、楽しかった時代の記憶が鮮明に蘇り、心から楽しい時を過ごせたおかげでその寂しさも消え、むしろ、時を経て変わらぬものの存在を実感し、改めて仲間や恩師との縁を強くつなげられた晴れやかな思いで、郡山を後にしました。

私は現在、山梨県の甲斐市という所で歯科医院を開き、約6年が経ちました。診療室の窓から富士山が見えるこの地で、地域の方々とは飲み会やソフトボールを通し親しくさせて頂き、郡山時代に沁みた人の温かさを、ここでも感じています。

最近では山梨県同窓生も増え、同窓会の活動も活発で頼もしく、心強く感じています。

現在の歯科界は先行きの不安な事が多いですが、同窓生や地域の皆さんとの絆に力を得

て、真摯に患者様と向きあえる歯科医師であるべく、更なる向上を目指したいと思います。

人 事

〈任 用〉

和田 康弘	助 教	歯 学 部 歯 科 保 存 学	10月 1日付
中山 大輔	臨床・講師	歯 学 部 歯 科 保 存 学	10月 1日付
高田 芳伸	教 授	薬 学 部	11月18日付

〈採 用〉

清水 智子	医 療 職 員 看 護 部	12月 1日付
-------	---------------	---------

〈定 年〉

伊藤 一三	教 授	歯 学 部 生 体 構 造 学	11月12日付
高田 芳伸	教 授	薬 学 部	11月17日付
福岡 章	教 授	歯 学 部 口 腔 病 態 解 析 制 御 学	11月30日付

〈退 職〉

竜 陽子	歯科衛生士 看 護 部	8月31日付
木村 文泰	臨床・講師 歯 学 部 歯 科 保 存 学	11月15日付
大越絵実加	助 手 薬 学 部	11月15日付

＜委員会からのお知らせ＞

現在、奥羽大学学報委員会では文学部の同窓生のひろばの記事を募集しております。内容は皆様の近況等を中心に600字程度の文章で下記の住所、もしくはEメールアドレスまでお送り下さい。その際にお手数ではありますがご本人の写真、学科並びに卒業期を添えて頂ければ幸いです。

皆様からの寄稿を心よりお待ちしております。

連絡先／奥羽大学 総務部 広報担当
gakuhou@jim.ohu-u.ac.jp

奥羽大学報124号 (通算249) 平成21年12月7日発行
発 行 奥 羽 大 学
学 報 編 集 委 員 会
委員長 清 水 秋 雄

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1
電話 024 (932) 8931(代) FAX 024 (933) 7372
ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>
メールアドレス info@ohu-u.ac.jp

一 歯学部・薬学部入学試験実施一

～ 今年度より入試科目を変更しました ～

平成22年度 入学試験概要

- 歯学部：一般入試 ○ 英語(I・II)と「数学(I・II・A)」から1教科選択 ○ 小論文
試験科目 ○ 理科：「物理I」と「化学I」と「生物I」から1科目選択 ○ 面接

入試区分	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
一期	50名	H22. 1. 7(木)～H22. 1. 26(火)	H22. 1. 28(木)	H22. 1. 29(金)
二期	10名	H22. 2. 15(月)～H22. 3. 2(火)	H22. 3. 4(木)	H22. 3. 5(金)

- 薬学部：一般入試 ○ 英語(I・II) ○ 数学(I・II)
試験科目 ○ 理科：「物理I」と「化学I」と「生物I」から1科目選択

入試区分	募集人員	出願期間	試験日	合格者発表
一期	70名	H22. 1. 7(木)～H22. 2. 5(金)	H22. 2. 7(日)	H22. 2. 9(火)
二期	10名	H22. 2. 8(月)～H22. 2. 19(金)	H22. 2. 21(日)	H22. 2. 23(火)
三期	10名	H22. 2. 22(月)～H22. 3. 3(水)	H22. 3. 5(金)	H22. 3. 6(土)

平成22年度歯学部編入学試験概要

- 歯学部：試験科目 ○ 小論文 ○ 面接

入試区分	募集人員	出願期間	試験日
編入学	若干名	H22. 3. 19(金)まで	願書受付後通知する



学ぶ意欲を持つ受験生を応援!

歯学部・薬学部とも、全国私立歯科・薬科大学の中では、最も負担の少ない学費です。